

追悼文

小松原 仁氏を偲んで

Remembering Dr. Hitoshi Komatsubara

鈴木 恒男

Tsuneo Suzuki

慶應義塾大学名誉教授

Professor of Emeritus, Keio University

小松原さんの訃報は1月15日の名取さんからのメールで知りました。初めはとても信じられませんでした。

小松原さんは日本色彩研究所に入所して、川上元郎先生の下で測光・測色の指導を受け、その部門の長から理事長まで勤められ、日本色彩研究所の発展に貢献されてきました。

私と小松原さんとの付き合いは非常に長く、初めての小松原さんとの共同作業は1988年の奈良女子大学での第19回日本色彩学会全国大会で「CIE白色度式の検討」とのテーマで共同発表をしたのが初めです。この大会で思い出すのは発表の内容より懇親会の後で、元東芝ライテックの測田さん、電総研の側垣さん、小松原さんと私で女子大生と一緒に楽しく時を過ごしたことを今でも覚えています。

1997年のAIC京都大会では共に実行委員として尽力し、大会の最終日の前日に京都国際会議場の宿泊施設の屋上で千葉大学の矢口先生、測田さん、小松原さん、私と他数人とで花火をして守衛さんにしかられた記憶もあります。

小松原さんの研究業績として大きなものは、測光、測色に関する知見の発展と、その普及に多大なる尽力をされたことです。その中で色差に関する研究は顕著な功績を挙げています。その業績は新編色彩科学ハンドブック第3版にまとめられています。

もう一つの業績として忘れてはならないのは、多くの色彩に関するJISの改正の中心として活動されたことです。また、色彩学会編集の出版活動である新編色彩科学ハンドブック第3版、色彩用語事典への貢献も忘れることは出来ません。

1993年に東芝ライテック、日本色彩研究所、慶應義塾大学の共同研究で小松原、測田、鈴木で「光源色での白色度の研究」を照明学会誌に発表しました。

小松原さんの人柄は、非常に温厚で、包容力があることです。このため測色機器メーカーをはじめとして、その他の分野でも非常に幅広い人脈を持ってい



ることで、また卓越した事務処理能力の持ち主で、これが遺憾なく発揮されたのが色彩学会の一般社団法人化への貢献です。

東京商工会議所のカラーコーディネーター検定試験の色の測定と安全色に関する執筆も担当されました。

個人的にはワインに造詣が深く、こよなくワインを愛されていました。趣味としてはボーリングが上手く、地元の人とよく楽しまれていました。

最後の共同作業になってしまったのはJIS Z 8105色に関する用語の改正の作業です。測色に関する用語の主査としてこの分野のまとめと、さらに幹事として全体のまとめ役をこなしてもらいました。この作業の後半に新型コロナのパンデミックが起これ、会議を開くことができなくなりました。このような状況の中で小松原さんのおかげでどうにか改正原案を作成することができました。

小松原さんの幅広い人脈と事務処理能力は色彩学会が、もしも困難な局面になった時に大きな力になると思われまので、それを期待できないことを非常に残念に思います。

私は友人として奥様の葬儀と、ご本人の葬儀に参列し、小松原さんとの深い縁を感じています。

コロナの影響で一緒に酒を飲む機会がありませんでしたので、もう一度一緒に酒を飲みたかったです。

最後に小松原さんのご冥福をお祈り申し上げます。